

2012年4月上演決定!

速報!

作 蓬萊竜太

演出 栗山民也



出演
秋山菜津子
中村たつ
魏 涼子
前田亜季
三田和代

ほか

まはらば

オール女優キャストによる

蓬萊竜太の岸田國士戯曲賞受賞作

○八年に初演の傑作舞台、
待望の再演!

2012年4月2日 | 月 | ~ 15日 | 日 |

前売開始 1月22日 | 日 |

チケット(税込) A席 5,250円 B席 3,150円

お問い合わせ ボックスオフィス tel.03-5352-9999

	4/2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
13:00														
14:00														
19:00														

★4/7・14=17:30

全国公演

4/18 | 水 | まつもと市民芸術館(長野) tel.0263-33-2200

4/21 | 土 | 兵庫県立芸術文化センター(兵庫) tel.0798-68-0255

4/28 | 土 | シベールアリーナ(山形) tel.023-689-1166



新国立劇場

小劇場 THE PIT

PLAY THE FLASH “MAHORоба”

まほろば通信

二〇〇八年七月、「シリーズ・同時代」の一本として小劇場で上演された『まほろば』。気鋭の劇作家、蓬萊竜太がオール女性キャスト六人を配したこの家庭劇は、タッグを組んだ栗山民也の巧みな演出とあいまって、評判を呼んだ。戯曲としても、翌年の岸田國士戯曲賞を受賞するなど、高い評価を得た。

初演時の劇評では、「神話・民俗の時間が大枠にある。舞台上方を飾る八雲立つ山々。題名が意味する美しき国だ。夏祭りの祭囃子

ものがたり

十代から七十代の 四世代の女性ばかりの物語

とある田舎町。祭りの夜。男たちは出払っており、女たちが残って留守を預かっている。数日前に東京から久しぶりに帰郷したミドリ（＝秋山菜津子）。東京生活は順調だったが、気がつけば四十代、婚約寸前で交際相手と別れ、傷心旅行のつもりだったのだが、実家の母（＝三田和代）は本家の血を絶やしたくないため、いまだ独身のミドリに小言が絶えない。本家の「大母様」（＝中村タツ）と、村の娘マオが二人の間に入り、なだめてくれるが、功を奏さない。一方、妹のキヨウコ（＝魏 涼子）は、父親のわからない子を出産。ミドリの姪にあたるその娘（＝前田亜季）の行方は何年もわからない。親戚の女たちが集まり、宴会の準備を進めているところに、長い間行方不明のわがままな姪が突然帰ってくる……。



「多層な時間設定と、 生きた人間像、せりふが効く」

——初演の劇評から

が、忍び込む。この民俗の時間を切り裂く、原爆の閃光。現代史の悲劇を含んだ大いなる時のまなざしの下、産む性としての女たちのドラマが、緊密なアンサンブルで喜劇的に繰り広げられる。（略）客席も包み込む轟音と劫火、熱射から身を守る、産土の現代女性たち。優れた演出だ。「朝日新聞、山本健一氏と評された。

初演から三年を経て、この『まほろば』が希望の再演。小劇場の密な空間に、さらにパワーアップした女性たちのドラマが展開される。

演出・栗山民也が語る、戯曲『まほろば』

蓬萊さんの第一稿を受け取り早速読んでみたのですが、これがまるでベテラン劇作家のようで、しっかりとした土台の上に構築された一幕物には、くすぶられるようなおかしみが随所に散りばめられ、とにかく登場人物の位置と構成の確かさにビックリしたのでした。四世代（登場人物の胎内にいる一人を加えれば、五世代になる）にわたる女性たちのポリフォニックな会話は、女性の生と性を自由闊達

【まほろば】とは
大和は国のまほろば たたなづく青垣 山ごもれる大和しうるはし
『明解古語辞典』三巻堂によると、「すぐれたよい所」とある。
古事記の時代の太神（倭）やまほろばを、すばらしい所であり、住みやすい所と表した古語。

井上ひさし氏

「妊娠」というものに主題を定め、豊富な劇作手法をたくみに駆使しながら、社会や家庭などにまぎれこんでいる男性的なものをもみごとに撃った。」

蓬萊竜太氏の『まほろば』の登場人物はすべて女性ですが、作者は、登場するすべての女性に「おもしろくて、感動的で、痛切な場面」を背負わせていました。それらの場面の基になっているのは、妊娠する力です。作者は、過去に妊娠したことがある、い

第五十三回岸田國士戯曲賞受賞！

ま妊娠している、そして近い将来に妊娠するであろう女性たちの心の動きとその言動を巧みに組み合わせてがっしりとした深層構造をつくりました。そして表層は、華麗で滑稽で露骨な対話で飾り立て、自由で軽快な滑走感を生み出しました。決してよそ見をせずに、ただひたすら「妊娠したのか、しないのか」に焦点を絞っているのも清潔でいさぎよく、豪快にして巧緻、軽妙にして深い思想を秘めた傑作です。「岸田國士戯曲賞選考委員のひとり、井上ひさし氏の選評より」

蓬萊竜太プロフィール

一九七六年生まれ、兵庫県出身。九十九年にモダン・イズミーズの旗揚げに参加。以降すべての作品の作・演出を務める。劇団外にも『世界の中心で、愛をさけぶ』『東京タワー』『オカンとボクと、時々、オトン』『赤い城黒い砂』などプロデュース公演の脚本、映画『ガチ☆ボーイ』原作など、多岐にわたる活躍中。若い感性でのびやかに描く青春群像劇が、世代を超えて多くの人々の共感を集め、新世代の本格派ストーリーテラーとして注目を浴びている。



新国立劇場

小劇場 THE PIT
http://www.nntt.jac.go.jp/play

ボックスオフィス

Tel. 03-5352-9999